



2019年3月期 通期 決算発表/説明会

2019年4月25日

日野自動車株式会社

代表取締役社長 最高経営責任者

下 義生

0 1. Challenge2025

0 2. 2018年度の取組み

0 3. 地域別状況

0 4. 原価低減活動

0 5. 19年度見通し

複雑化しているお客様と社会の課題を、 「3つの方向性」の取り組みで複合的に解決

解決すべき課題

安全

重大交通事故

環境

CO₂問題

効率

お客様ビジネスの持続的成長
ドライバー不足等の物流危機



お客様・社会への価値提供

- ① 交通死亡事故ゼロ
- ② CO₂排出量の大幅削減
- ③ お客様ビジネスの発展支援
- ④ 人流・物流の更なる効率化



安全・環境技術を
追求した最適商品



最高にカスタマイズされた
トータルサポート



新たな領域への
チャレンジ

「もっと、はたらくトラック・バス」の3つの方向性

事業基盤強化により、安定した株主還元・企業価値向上を実現

- 最適商品、トータルサポートによる諸地域バランスのとれた成長（6%/年ペースでの成長）

	2017	2025目線
販売台数	18万台	30万台

- トータルサポート、入庫促進活動による入庫台数増

保有台数	約175万台	約270万台
入庫率	約3割	約5割
期待入庫	約52.5万台	約135万台

- トータルサポート/ソリューションビジネス
- 全領域での原価低減活動

売上高	1.8兆円	2.5兆円
営業利益	800億円	2,500億円
率	4.4%	10.0%

0 1. Challenge2025

0 2. 2018年度の取組み

0 3. 地域別状況

0 4. 原価低減活動

0 5. 19年度見通し

「3つの方向性」で、お客様と社会の課題の解決に着手

18年4月

18年9月

19年3月



安全・環境技術を
追求した最適商品

● 後付ドライバーモニター

● 大型HV

● ドライバー異常時対応システム



最高にカスタイズ
されたトータルサポート

● ICTによる運行サポート

● ファイナンス新会社



新たな領域への
チャレンジ

● 商業CASE推進組織

● 物流ソリューション会社

● Monet
業務提携



仲間作り

● TRATONとの
戦略的パートナーシップ

● TRATONとの電動領域、
調達ジョイントベンチャー取組発表



早く決めて
早く動く体制

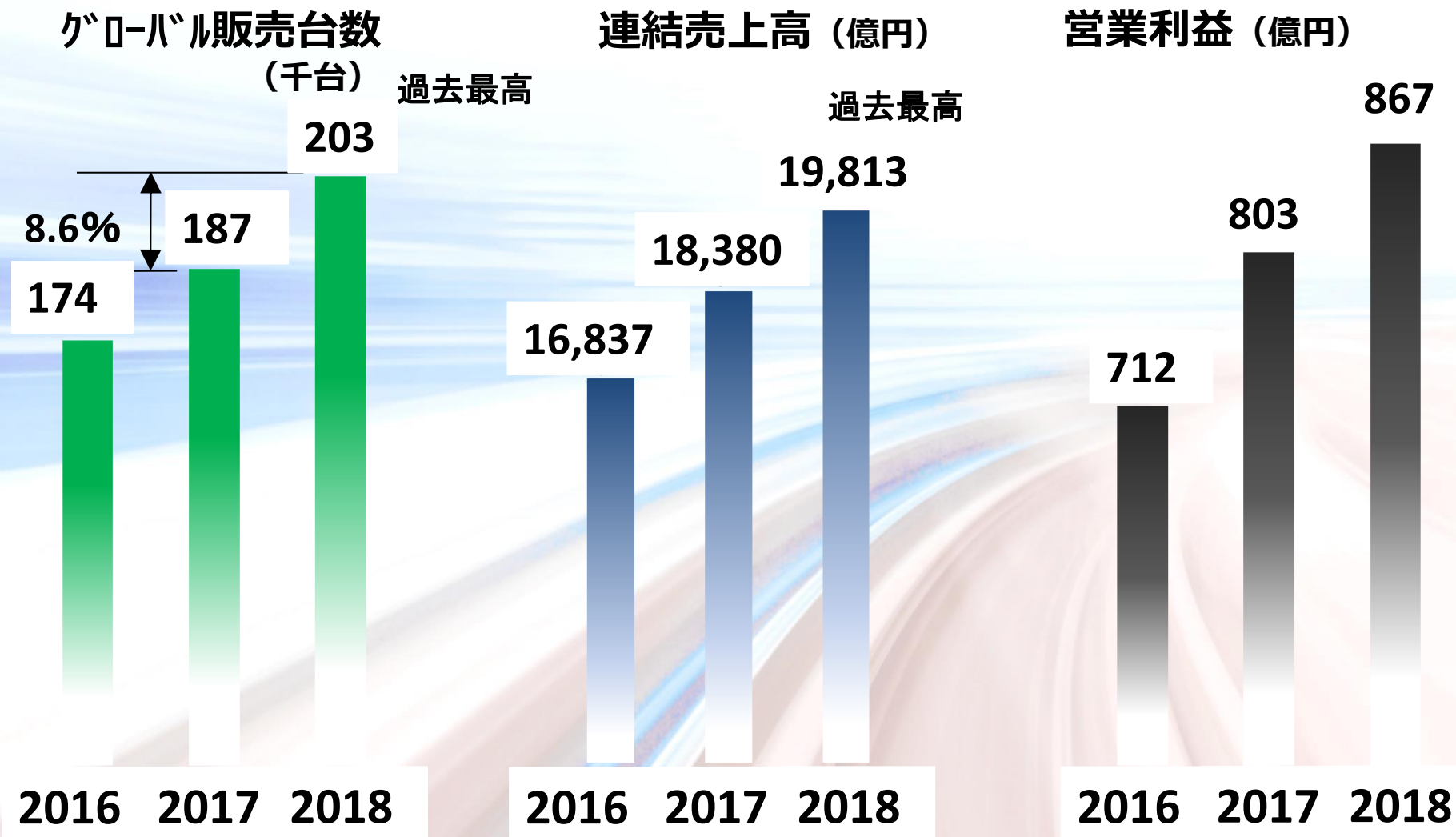
● 4本部体制

● 領域制の導入

● 外国人役員の登用

● 現地人材を現法社長任用

18年度 販売台数・売上高は過去最高、二期連続の増収増益



0 1 . Challenge2025

0 2 . 2018年の取組み

0 3 . 地域別状況

0 4 . 原価低減活動

0 5 . 19年度見通し

3.地域別状況



主要地域を中心に、最適商品とトータルサポートで事業基盤を強化

	日本	ASEAN	北米	中国	
最適商品	先進安全装備拡充 大型トラックHV	域内開発拠点 地域最適商品 を最短で供給	新高馬力車導入	大型車新商品	
トータルサポート	HINO CONNECT 装着拡大・標準化 JD Power No.1	ICT導入、サービス拠点リニューアル、お役立ち活動 全米ディーラー協会 ブランド価値 1 位			拠点拡充
事業基盤	古河工場 (マザー工場) 車両一貫生産	生産拠点化 中型トラック 小型トラック	新工場建設 生産拡大	大型トラック 生産拠点	
18年度販売	過去最高販売 71.5千台 (前年比+7%)	主要5カ国過去 最高販売65.5千台 (前年比+14%)	過去最高販売 17.4千台 (前年比+5%)	18年増販 3.6千台 (前年比45%)	

トータルサポート強化の取り組み

18年度グローバル保有台数：186万台※（前年比106%）

※推定値

日本

保有台数
89.0万台
（前年比105%）

拠点更新：18年度は5拠点竣工（100億円／年の投資継続）
ICT活用（HINO CONNECT）：本年5月より全車装着開始
小トラ車検作業時間：作業標準の徹底
作業時間120分 ⇒ 80分

ASEAN

保有台数
51.3万台※
（前年比109%）

【インドネシア】
お客様情報データベースの運用開始、定期サービス契約拡販、
訪問サービスによる入庫促進（入庫台数前年比120%）
部品供給ネットワーク強化
部品センター拡張・改善など⇒部品売上 過去最高

北米

保有台数
12.5万台※
（前年比113%）

サービス拠点拡充と専売化の推進
（米国）9店増の241店（内、専売店は5店増の16店）
テレマ本格活用
リアルタイム走行距離に基づく定期メンテナンス自動入庫案内
アクティブUIO情報の正確な把握の取り組み

0 1. Challenge2025

0 2. 2018年の取組み

0 3. 地域別状況

0 4. 原価低減活動

0 5. 19年度見通し

4.原価低減活動



**全ての領域で原価低減を徹底
(18→19年では、200億円の削減を目指す)**

新車開発

モジュール軸での
コストエンジニアリング

アライアンス活用
ショック・レイアウト、
トレイトン等との調達
・技術開発協力

ものづくり

自動化手法

自動化設備

稼働率向上

工場～お客様

車両物流費削減

「アフターサービス原価低減」
・整備生産性向上
・部品物流費削減

車両
台当たり
原価の
低減

ASEAN
拠点化

ASEAN最適商品の開発・生産拠点を外に設置

→開発・生産技術・調達一体となった原低活動
現地自己完結による迅速な意思決定・固定費抑制

固定費
抑制

**新たな取り組みへのリソース創出
更なる生産性向上に向けた投資**

徹底した原価低減で「稼ぐ力」を向上

遠隔地のボデー架装ラインを古河工場
に集約（売れ筋のウィングバン）
車両全体での物流費削減



日野グローバルハブセンター（東京都青梅市）
稼働開始。
補給部品供給体制強化、物流コスト削減



0 1. Challenge2025

0 2. 2018年の取組み

0 3. 地域別状況

0 4. 原価低減活動

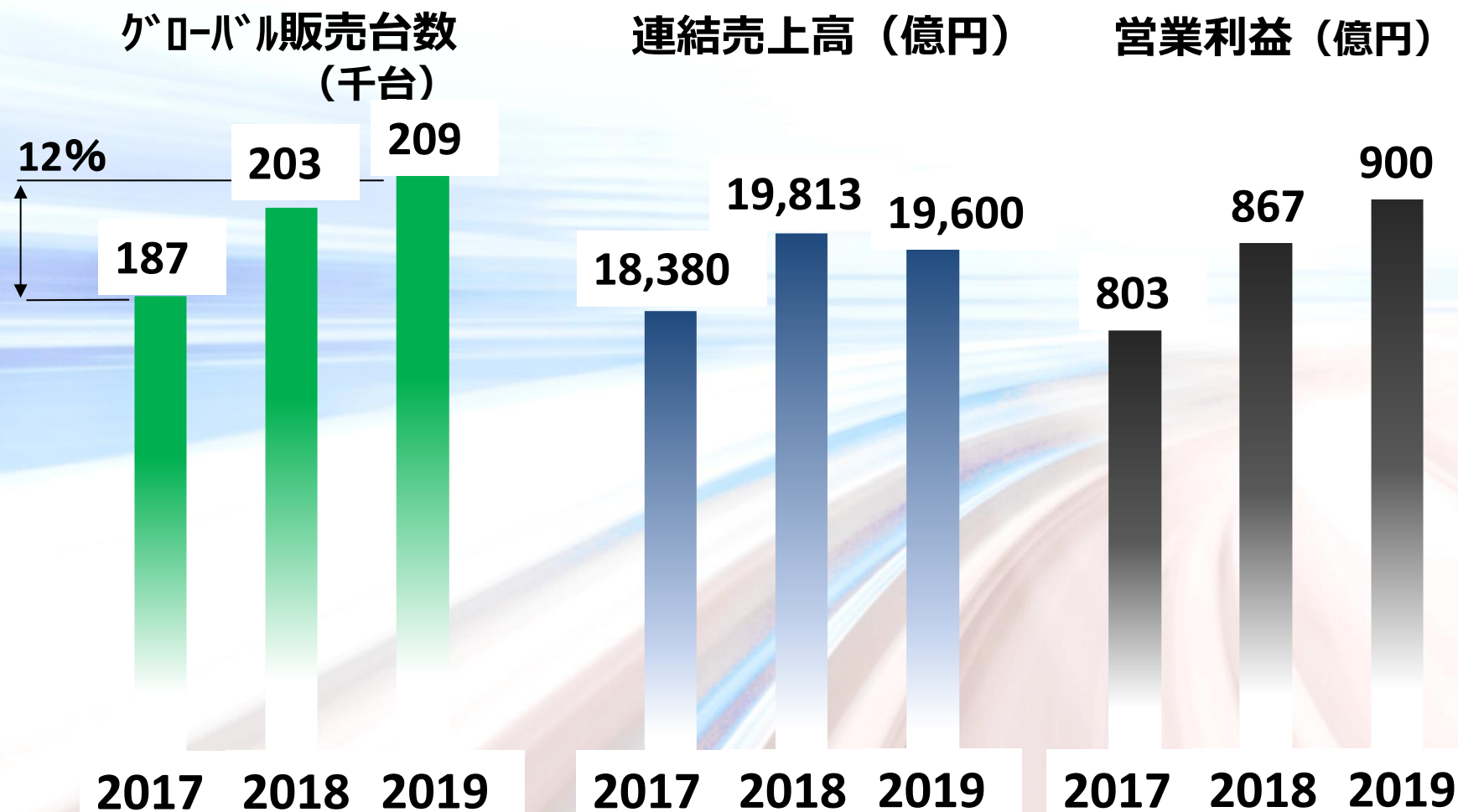
0 5. 19年度見通し

5.19年度見通し



市場・販売：世界経済の不透明感、日本の03～06年 環境規制需要の代替一巡のなか、日野は着実成長

取り組み：19年度は事業基盤強化を更に推進、増益を目指す





2019年4月25日
日野自動車株式会社